

吉川の風

東広島市立吉川小学校

令和7年10月10日

No.14 校長 沖 秀治

めもあある美術館へようこそ

「めもあある美術館」って知っていますか？

家を飛び出した主人公、ぼくは、今まで来たこともない路地に出ました。そして、ある店の前を通りかかると、そこに一枚のなつかしい絵を見つけたのです。その絵は、もう亡くなってしまった、大好きなおばあちゃんの絵。でも不思議です。いったい、その絵は誰がかいたのでしょか…。

そこに一人の男が登場します。そして、おばあちゃんの絵を買いもとめていきました。男は、その絵をどうするつもりなのでしょう。ぼくは、そのことが気になり、思い切って男に声をかけました。そして、その絵を展示するという「めもあある美術館」に連れて行ってもらいました。

額にはめられたおばあちゃんの絵。そして、その横にはずらりとならんだ、自分のなつかしい思い出の絵の数々。愛犬ペスの絵、宝物だったおもちゃの船、去年の夏、家族で行った山の中の小さな湖。そして…。

ぼくは、一枚一枚の絵に引き込まれ、なつかしい思い出にひたります。そう、「めもあある美術館」は、自分の思い出の絵がかざられた美術館だったのです。

最後に、男の人はぼくにこう言いました。

「君は、これからも絵をかき続けていくんだよ。

このたくさんの額の中に。この美術館は、いつでも来たいときに、見に来ることができるんだ。」



「めもあある美術館」とは、子ども達一人一人の心の中にある、自分の思い出の絵を飾る美術館です。前期を終える今、子ども達の「めもあある美術館」には、どんな絵が飾られているのでしょうか。

6年生は小学校を卒業する時、1～5年生はそれぞれの学年での生活を終える時、「楽しい小学校生活だったな」「がんばった1年だったな」と思えるよう、これからも素敵な思い出の絵を、飾って行ってほしいと思います。

特別授業その1 さあ、未来を想像してみよう！

先週の金曜日に三菱 UFJ 人事サービス株式会社 常務取締役の山川さんにお越しいただき、「さあ、未来を想像してみよう！」と題して、4～6年生の子ども達にキャリア教育に係るお話をしていただきました。以下、私見ですが私が一番心に残った言葉と子ども達の感想を紹介します。

【たくさんのアイテムを用意することが大切】

将来の夢の実現に向けて準備をすることがとても大切。専門的な知識、様々な経験、語学力、コミュニケーション能力等々、アイテムがたくさんあるほど選択肢は広がるし、自分を助けてくれます。たとえ夢が変わったとしても、準備して身に付けた力は必ず別の場面でも役に立つんだよ。



【子どもの感想】

自分の将来の夢はパティシエでした。自分でイチゴなどを育てて、吉川で売りたいと思っていました。でも、今回の授業を受けて、お母さんがやっていた保健師の仕事も前からあこがれていたことを思い出しました。保健師になって優しく治療できる、お母さんみたいになりたいと思ったので、今回の授業はいい機会になったと思います。自分の夢に向かって協力しながら頑張りたいです！もし自分がどこに進めばいいかわからなくなったら、キャリアを思い出して、考えて自分を励ましなが進みたいです！

特別授業その2 在来種を育てよう！

昨日、ハーバード大学の光岡先生と、京都府にある総合地球環境学研究所特任教授の吉川先生が本校を訪問されました。目的は、「在来種栽培プロジェクト」をスタートすること。とても貴重な在来種の種を持ってきていただき、その中から子ども達が育てたいと思った野菜を選んでまきました。吉川先生から、土作りや種蒔きの仕方を教えていただき、一粒一粒丁寧に蒔きました。長期間保存されていた種なので、発芽するかどうかは五分五分(?)ですが、種がもつ力を信じ、毎日世話を続ければ、きっと発芽するはず。子ども達とは、育てた野菜(大根)で「おでんパーティー」をしようと計画しています。



【子ども達から種へ一言(在来種を育て始めるにあたっての気持ち)】

種さんへ

初めまして！これから君達を植える人です！私は在来種のことをとても大事な存在だと思っています！F1種のもとになった大事な存在だからです！これから君達を大事に育てて外国の人達に「おいしい！」と言ってもらえるように頑張ります！これからよろしくね！

小さな種から、大きな植物に元気に育ってほしいなと思います。種ちゃんのご先祖がくれた命をつなぐために、私達が大切に育てて、元気に大きくなってほしいなと思います。その種ちゃんから、たくさんの種に受け継がれてほしいです。大切に育てるぞ！